

奥積雅彦（総務省統計研究研修所教官）

## フランス語の対訳が付された日本帝国統計摘要と万国統計公会の決議

（本稿は総務省統計局HP「統計図書館ミニトピックスNo.24」を基に作成）

### 1 日本帝国統計摘要とは？

日本帝国統計摘要は、日本帝国統計年鑑の摘要版で、明治20年（1887年）に第1回が創刊されました。同書の緒言（資料1）をみると「従来出版の統計書は邦文に止まりしが、今此書は…仏文を用いしは万国統計公会の決議に基づきたるものなり」とされています。フランス語の対訳が付された本書の刊行により、海外における利用の便が図られることとなりました。

#### 日本帝国統計摘要 第1回



【画像】：総務省統計局HP「統計の黎明とその歴史」の「統計史料」

### 2 万国統計公会とは？<sup>1</sup>

近代統計学の父と称されるケトラー（1796～1874）が、1851年

イギリス・ロンドンで開催された世界博覧会が開催された時、各国の統計を比較可能にするために、統計の定義、単位、作成方法の統一を図ることが重要と考え、同志とともに協議して、統計に関する国際会議の開催を提案。1853年、自身が提案した第1回万国統計公会がブリュッセルにて開催され、そこで初代会長に選出されました。公会は、1876年まで9回開催されました。会議は各国の代表者のほか民間の学者で構成。

#### ●万国統計公会の開催状況

順序	開催地	年 紀	出席人員
第一回	ブルッセル	一八五三	八八
第二回	パリ	一八五五	二〇三
第三回	ウイenna	一八五七	四六四
第四回	ロンドン	一八六〇	五〇五
第五回	ベルリン	一八六三	三五〇
第六回	フロレンス	一八六七	六六六
第七回	ハーグ	一八六九	三七二
第八回	ペテルブルグ	一八七二	三六〇
第九回	ブタペスト	一八七六	二六七

【画像】横山雅男「統計学」：国立国会図書館デジタルコレクション

### 3 日本と万国統計公会との関係

日本帝国統計摘要の緒言【参考資料1参照】に「統計の官を置かれてより未だ幾ばくならずして我政府はフランス統計学士モーリスブロック氏を名代人とし万国統計の大会へ加はりしこと凡そ二回に及べり。即ち明治八年【参考資料1の注2参照】ハンガリー・ブダペストの万国統計公会…是れなり」とあり、また、前掲の「統計萬國會議の沿革及概況」の「第五 本邦と万国公会の関係」においても「明治四年太政官に政表課を

<sup>1</sup>【参考資料】：高橋二郎「統計萬國會議の沿革及概況」、横山雅男「統計学」、国立国会図書館インターネット資料収集保存事業（WARP）により保存された2018年6月1日現在の統計学習サイト「なるほど統計学園高等部」（統計年表の「アドルフ・ケトラー」）

置かるゝや翌年ペテルブルクの公会あり我が政府は委員派遣の意ありしも我政府は果さず唯当地在欧西岡議官外数名の員外列席あり次回ブダペストの公会にはフランスの統計学者モーリス・ブロック氏 (Maurice Block) を以て本邦の名代人となし之に列席せしめ文明各国中に名誉の地位を占め余も此時を以て政表課に入り公会の往復に関し々同氏の報告を訳して当路の参考に供せり」とあり、万国統計公会で我が国の名代人としてモーリス・ブロック氏に委託したことをうかがい知ることができます。

#### 4 万国統計公会の決議と日本帝国統計摘要

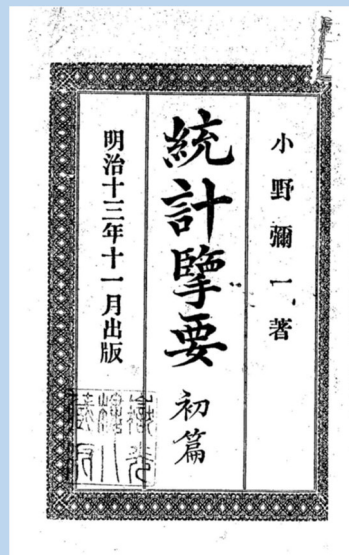
今後における統計図書館の統計相談業務（調べもののお手伝いをするレファレンス業務）を想定し、日本帝国統計摘要（第1回）の緒言でいう万国統計公会の決議について調べてみました。

国立国会図書館デジタルコレクションで「万国統計公会」をキーワードとして検索したところ、小野弥一<sup>2</sup>著「統計學要 初編」<sup>3</sup>（明治13年<sup>1880</sup>年刊行）にヒットしました。その中に万国統計公会の起源や統計の編制（万国統計公会の決議）について紹介されていることが分かりました。

同書で、1853年ブリュッセルで開催の第1回公会における決議及び1855年パリで開催の第2回公会における決議の内容が訳出されています（【参考資料2】参照）。その趣旨について、同書で「努めて各国統計の方法を同一にして以て比較の便を得せしむるにあるなり」、「統計は…一国の用に応ずるのみならず、尚ほ世界一般の用に充つべきものなり」とされています。このことは、万国統計公会の決議の理念を示唆していると考えられます。また、高橋二郎「統計萬國會議の沿革及概況」（統計集誌第359号）<sup>4</sup>によれば、1869年のハーグの公会において、エンゲル係数で有名なドイツのエンゲル氏の発議により、加盟各国が分担して編成し

た万国比較統計が1876年の公会に提出され、皆フランス語が用いられていたとされていました。そこで、万国比較統計には、フランス語の対訳を付す万国統計公会の決議があるのではないかと考え、統計集誌等を探索してみました。その結果、モーリス・ブロック著、塚原仁<sup>まさし</sup>訳「統計学の理論と実際」の第三章（統計會議）/第三節（結果及び未決定事項）<sup>5</sup>に、（万国比較統計の）「報告書は全てフランス語を以て発表すること…等を決定した。」との記述がありました。また、高橋二郎「統計書ノ刊行及交換ニ關スル公會ノ決議」（統計集誌第84号）<sup>6</sup>に、<sup>ロンドン</sup>龍動の公会において「万国統計に用ふべき一切の表類には数字の欄頭に書せる為め別欄を加へて其国語と仏蘭西語と対訳すべし」とする決議に係る記事がありました。したがって、日本帝国統計摘要の緒言の「今此書は…仏文を用いしは万国統計公会の決議に基づきたるものなり」でいう「決議」は1860年のロンドンの公会の決議をさしていることが分かりました。

#### 統計攬要 初編



【画像】：国立国会図書館デジタルコレクション

<sup>2</sup> 小野弥一（1847-1893）：弘化4年（1847年）生まれ。昌平坂学問所（昌平黌）を経て、横浜仏語伝習所でフランス語を学ぶ。開成所教授ののち徳川家に仕え、明治4年（1871年）、アメリカ、ドイツ経由でスイス・ジュネーブに到着し、普仏戦争が鎮まるのを待って、フランスに留学。元中央統計局長ルゴア氏の家で、同氏について統計学、行政学、経済学を学び、その後モーリス・ブロック氏に学ぶ。また、フランス駐在の中野公使代理を通じて、フランスの司法省、農商務省、大蔵省の各統計部局において、実務を執り、様式の調整、事実の蒐集方法を攻究。帰朝後は、明治10年、調査局（政表課誌の8月17日に調査局御用掛となる旨の記事があり、政表（統計）の業務を担当したとみられる）を経て、明治14年、統計院（現在の総務省統計局に相当）、会計検査院に勤務。その後、工部省、文部省（帝国大学書記官）、会計検査院検査官補を経て、明治25年、ニューカレドニア初代日本人移民団総監督を嘱託される（会計検査院の非職検査官補の身分で日本吉佐移民会社へ加盟し社員業務に従事）。明治26年、現地で死去。東京統計協会 会員、役員としても活躍。（統計図書館ミニトピックスNo.24）

<sup>3</sup> 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/805743/1>

<sup>4</sup> 国立国会図書館デジタルコレクション（※国立国会図書館／図書館送信参加館限定）で閲覧可能 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1573227/85>

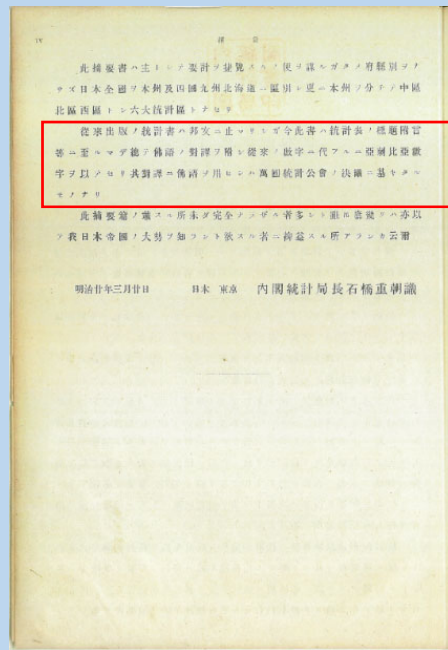
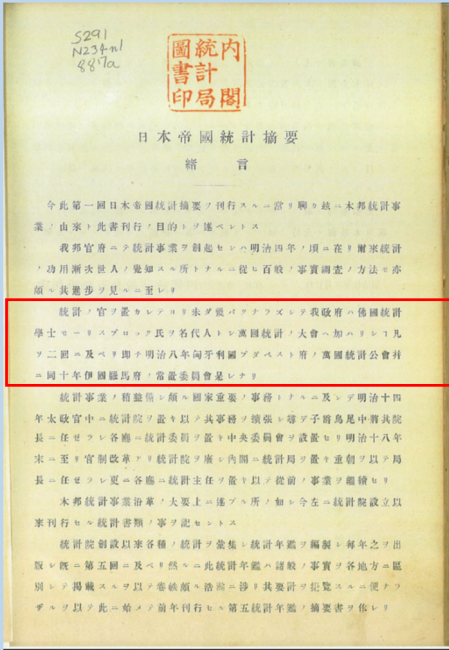
<sup>5</sup> 国立国会図書館デジタルコレクション（※国立国会図書館／図書館送信参加館限定）で閲覧可能 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1061792/43>

【参考】原書（モーリス・ブロック著「Traité Théorique et Pratique de Statistique」）では、「On décida en outre que tous les volumes seraient publiés en français」とされています。

<sup>6</sup> 国立国会図書館デジタルコレクション（※国立国会図書館／図書館送信参加館限定）で閲覧可能 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572950/5>

【参考資料 1】

日本帝国統計摘要 第1回（緒言）



統計ノ官ヲ置カレテヨリ未ダ幾バクナラズシテ我政府ハ仏国(フランス)統計學士モーリスブロック氏<sup>【注1】</sup>ヲ名代人トシ万国統計ノ大会ヘ加ハリシコト凡ソ二回ニ及ベリ即チ明治八年<sup>【注2】</sup>匈牙利国(ハンガリー)ブダペスト府ノ万国統計公会並に同十年伊国(イタリア)羅馬府(ローマ)ノ常置委員会はレナリ

従来出版ノ統計書ハ邦文ニ止マリシガ今此書ハ統計表ノ標題附言等ニ至ルマデ総テ仏語ノ対訳ヲ附シ従来ノ数字ニ代フルニ亞刺比亞(アラビア)数字ヲ以テセリ其対訳ニ仏語ヲ用ヒシハ万国統計公会ノ決議ニ基キタルモノナリ

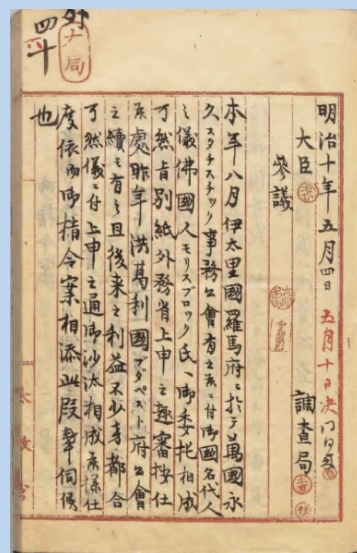
【画像】：総務省統計図書館所蔵

【注1】：緒言でいうモーリス・ブロック氏は、小野弥一がフランス留学(明治4年~)の際、統計学を指導した人物とみられます。

【注2】：モーリス・ブロック著「Traité Théorique et Pratique de Statistique」(前掲の「統計学の理論と実際」の原書)において、第9回万国統計公会は、明治9年にハンガリー・ブダペスト(「à Budapest en 1876」)で開催とされています。(前掲の横山雅男「統計学」の万国統計公会の開催状況の一覧とも整合しています)。

なお、右記文書は、明治10年8月にイタリア・ローマで開催のスタチスチック(統計)事務の会議にフランス人モーリス・ブロックへ代人を委託することについての太政官から外務省への上申に係る文書であり、同文書の中で昨年ハンガリー・ブダペストにおいて開催の公会に続くものである旨が記載されています。この文書からもハンガリー・ブダペストの第9回万国統計公会の開催年は、明治9年であるとみられ、前掲の日本帝国統計摘要の緒言における同会議の開催年は明治8年とされていますが、明治9年である可能性が高いと考えられます。

●明治10年5月の外務省への上申に係る文書



【画像】：国立公文書館デジタルアーカイブ (件名：伊国羅馬府ニ於テ万国統計公会ヘ代人トシテ仏人モーリスブロック派遣ノ儀伺)

## 【参考資料2】小野弥一「統計學要初編」（第3章 統計の編制（万国統計公会の決議））（抜粋）

（筆者が原文のカタカナをひらがな表記にし、旧字体はできるだけ新字体にし、句読点等を付しました。）

※原文のファイルにおいて一部不鮮明な文字があり、黄色のマーカー部分は、考えられる文字を仮置きし、それでもなお判読できない文字は「■」表示としました。

### 第三章

#### 統計の編制（万国統計公会の決議）

…（略）…

ブリュッセル府並に巴里府の公会に於て議決したる條章は、最も簡明なるを以て、今之れを訳出して左に示す。…（略）…

#### ブリュッセル府公会の決議 1853年

統計の効用、統計の執行及び官版の統計に付各国にて画一基礎を採用

万国統計公会を設けたる目的は、各国政府に於て刊行する所の官府の統計をして殊に画一に赴むかしむることを求め、且つお互いに比較し得る所の結果を得せしむるに在り。

苟しくも統計一般の基礎を立て、各国に於て一とたび同一の式目を採用するに於ては、其節目に属する特別なる統計事業の如きは最も容易に赴むことを得べし。斯（こ）うした万国同一の式目を用ふる時は、統計の事務を簡明にし、其効用と堅固とを保証することを得せしむべし

官府統計の事業をして画一ならしめんには、先づ其事實を集めんことを要し、又一般なる統計各部分の編輯を任せられたる重なる役員は、互に面会し、互に會議することを得。且つ同一の類別を允許（いんきょ）し、同一なる事物を表章せんには、精密なる検査を歴たる後、同一の名称、同一の数字を採用し、一般なる統計の諸表は欠漏重複ならしめんことを要す。統計をして画一ならしむる所の最大良法を各国に於て統計中央会あるいは之れに類似せる~~==~~設置するも在り。但し、其委員に重なる官庁の名代人を以て之れに任じ、之れに加ふるに學問又は特別なる智識を以て實際を明らかにし、又全く學術上に関する所の難問を解明し得べき人を以てすべし

右の法案は必ずしも斯くあらんことを要するにあらず、惟統計の諸務を一人又は数人なる役員の掌中に集合せしむれば裨益する所あるべきを謂ふなり。

許多（あまた）の統計書類中には實地現場にあらざれば其の驗（けん）をなすこと能はふるもの多く、又統計は實に微細なる節目に至るまで悉く検査を遂げんことを要するが故に中央会員と交通する所の役員官局又は特別なる委員を設たるとは必用なりとす。斯く統計の線路を国内縦横に敷布するときは事苟しくも少しの有用なるものあれば其事實調査の任を有する役員の注目を脱することを得ず。而して常に公衆の恐怖を惹き起し甚しきに至りては人民の抵抗を來す所の統計の大事業をして其裨益を了解せしむるに至るべし。此他、希望する所のものは各国の中央会員互に交際を結び各其出版の統計書及び事實を彙集し、配列し、又は之れを抜粋せんがため用いたる諸表式を交換するの事なり。

万国公会は統計の学科に於て最も進歩したる各国中央会員の名代人を会集するものなれば統計學一齊の進歩をなすこと疑ひなし。統計の學たる其の事業の画一と互いに比較し得べき結果を得るの方法とを以て最も肝要とするものなり。

前條に記載したる一般なる主義に添へて公会は尚ほ左の決議を採用せり。

第一 各国に於て一の中央会を設くるか又は一人の委員を定めて交換、通信の道を容易にし、且つ之れを拡張するため安全神速にして、且つ入費少なき方法を以て統計の書類を送達受領することを任ずべし

第二 白耳義（ベルギー）国中央統計会の報告書には、毎年前條に記述したる交換の目的に因りて統計に関する書類刊書及び通報を公布すべし

#### 巴里（パリ）府公会の決議 1855年

各国に於て中央統計会を設くべし。但し、其委員の編制は重なる官庁の代理人及び特別なる見聞或は學問に因りて統計の實際を明らかにし、又全く學問上に係る難問を詳明し、得べき者たるべき事

右二次公会の決議に拠れば万国統計公会の要は務めて（努めて）各国統計の方法を同一にし以て比較の便を得せしむるにあるなり。

故に未だ公会に加はらざる国に於ては速に其法の因り万国に通ずべき事物の類別を立るの变革を試みざるべからず否らざれば其調査する所一國偏僻（へんぺき）の統計に遇きずして宇宙を通觀するに足るべき一部分の利益に供するに足らざるは論を待たずして明なり。蓋し公会決議の條件は各国學者の討論審議せし所にして其智識と経歴とを淘汰精煉（せいれん=精練）したるものなれば何んぞ国を問はず就中（なかんづく）未だ統計の進歩せざる国に於ては從來の雜糅（ざつじゅう）錯乱せる者を棄て、之を採用するに及ば、其益少なきからざるべし。斯くの如く~~にの~~（このように行った）調査したる統計は則（すなわち）眞の統計にして一國の用に~~不~~（な）るのみならず、尚ほ世界一般の用に充つべきものなり。